



開会の挨拶

理事長 丹野幸子



本日は、宮城県高齢者生活協同組合「第23回通常総代会」にご出席いただきましてありがとうございます。コロナ禍という中で、昨年引き続き、多数の皆様は、書面での参加になりました。

昨年は、経営困難の高齢協が、友誼団体の支援で再建の道が開けたことを報告いたしました。今年は立ち上がり、元気に再生する様子を皆様に「見て頂きたい一心で、事業運動」を進めました。

わけても「小規模多機能型居宅介護支援事業所のこびし」と「泉中央老人福祉センター」の職員スタッフの皆様との日々の努力は並大抵なものではない。この職員スタッフの皆様への奮闘、そして高齢協運動を深く理解し、変わらぬご支援を下さっ

ている組合員の方々のお陰で、今年度は、次の展望を臨める場所に立つことができました。

介護保険制度ができてから20年が経過しました。国民が納める介護保険料は、現在はほぼ2倍になり、サービスの利用料は1割負担から原則2割になる動きです。

介護事業所の介護報酬は、低く据え置かれ、事業所収入は、32%減収になり、「コロナ」追い打ちをかけられて厳しい状況です。

働く介護職員の賃金は、全産業平均より、月額で8万円も下回るという低い水準です。そして問題なのが、介護従事者が足りないという状況です。介護は教育と同様に人にかかれない大切な仕事です。

介護、福祉に携わる職業についていかに誇りを思っているか、力を発揮できる社会、そういう人材を大切に事業所でありたいと願っています。

高齢協は、「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という憲法25条を土台にした、介護保険制度の理念に立ち返った制度返還を求めて、他の団体

と協同、連携した運動を進めていきます。

作家の五木寛之さんは、人間関係もフィジカルなつながりを伴ったものから、精神的な共感を共有し合う連帯が主流になっていく中で、「これまで、みんな一緒にいながら個人で勝負していくべき」

「Together and Alone」の社会を目指していった。ところがコロナの出現による、これが逆転し、ステイホームでも、人々はネットでの交流など、連帯を維持しようとしています。

個々の人が孤立しながら連帯する「Alone And Together」の社会になりつつあるのでは。一斉に咲き、一斉に散る桜の時代から、一輪ずつ咲く梅の時代になったのかもしれない」と語っています。

私達は時代と無縁ではいられない。変化の中で、個々の違い、多様性を重んじ、支え合いながら、持続可能な地域社会、をつくりたいと思います。

宮城高齢協12308人の仲間と新たな時代をつくる若い人達、また

これから加入する新しい仲間を加え、ともに「虚空から花を掴み出す」勢いで、希望ある未来を果敢に切り開いていきますよう。
皆さんの共につくる「希望ある未来」を信じて挨拶致します。

議案指提案 副理事長 伊藤憲仁

第1号議案

「2020年度活動報告及び決算承認の件」

第2号議案

「2021年活動方針及び予算決定の件」

第3号議案

「定款改定の件」

第4号議案

「役員補充選任の件」

第5号議案

「役員報酬限度額決定の件」

第6号議案

「議案決議効力発生時の件」

の提案を行いました。

ました。

横尾成雄監事からの監査報告があら

総代・各事業所から発言

森田眞理総代

（シニアワーカーズコープ仙台代表）

現在、生活支援

を中心に草取りや換

気扇掃除、通院のつ

きなど等は1時間干

田での時間程度の仕

事で引き受けています。依頼は、地

域包括やケアマネから直接、相談を

れて手伝っています。

現在は、SDGs（エスティーブ

）にも興味があり、特に8050問題

にはいつも関心が高いです。

加藤公子理事

（名取地域センター）

という活動する仲間の高齢化が

進み、60代がいません。仙台市方面

からの要望もあり、皆さんの協力を

お願いしたい次第です。コロナ禍で

お茶会も開催していません。

昨年は、泉中央老人福祉センターで

行った「からし大根

作の」が好評で、今

年も開催を予定して

います。



遠山ちよみ総代

（ひなたぼっこ石巻）

認知症の御主人を介護している奥様

が毎週来ています。最初なじめな

ったのですが、ひなたぼっこに来る

のが楽しみになったようです。

郵便配達の子供もガールフレン

ド連れて遊びに来

るなど、ひなたぼ

っこは、いいこの

場として利用して

もらっています。

永野まの子理事

（泉西部地域福祉事業所）

89歳一人暮らしの人が寂しくて不

安で一人娘が毎日電話しています。

親離れはするが子離れが難しい例で

す。92歳の女性の方が息子夫婦と同

居しているが、4時間かかる通院の

付き添いで、嫁さんが腰痛で長時間

座れないと包括から連絡あり、通院

付き添いの例。日中老夫婦だけの

世帯でお嫁さんが食事の支度をして

いるが喉の通りの良いものを食べた

いと買物の支援。子供の同居の

悩みを持つ男性の方の相談を受け

て、サービスもいろいろあるんだよを



知らせて、高森地域包括支援センタ

ーの方に来てもら

ながら、支え合っ

この難しさを考え

せられた例、など

です。

小石眞理子理事

（いの庵こびし施設長）

コロナ前にはボランティアさんが

月に数人来ていましたが、コロナに

なつてからは感染者を出さない対策

に強化してボランティアさんがいな

い状態です。

マスク着用については、マスクが

できない方へ、手紙などで意識を高

めてもらいましたが、利用者さん同

士で摩擦が起きてしまったこともあ

りました。大震災発生時に事業が滞

らないように避難訓練をし、コロナ

発生時に利用者さんに迷惑が掛から

ないようにこころ対応していくのかな

ど、事業を継続していくための対応

についてみんなで

検討しています。



半澤理事理事

(泉中央老人福祉センター館長)

「コロナ禍により年間の利用者数が30%と落ちました。」

「コロナ感染対策については、仙台市の感染予防ガイドラインを基に職員で話し合い、職員の意見も取り入れながら感染対策を行っています。来館者からは「ここは他よりも熱心に消毒作業をやっているのが安心です」という声があり、来館者が少しずつ増えてきているように思います。通常業務の他に、コロナ対策の消毒作業を繰り返している。その職員の努力が、安心して過ごせる居場所だと評価を得たのだと思います。」



「ここに社会福祉協議会からの支援を受けてボランティア会の発足があり、昨年からの活動を展開しています。」

水戸部秀利理事

(若林地域センター)

若林クリニックの友の会や高齢協の地域の方が協力して開催しているサロン活動ですが、「コロナ禍の中で

は福島をんを中心にくりにっく内待合室にて折り紙で作ったお花見会をしたりしています。」

助け合い事業ではコロナワクチン接種の送迎や草取りなどの支援も増えてきています。7月からサロン活動再開の検討をしているところです。」



大木正俊議長より

80500問題について、自身の介護事例を話し、ぜひ、高齢協についても後、取り上げて欲しい問題です。と発言がございました。」

まとめ

副理事長 伊藤 仁

高齢協運動の原点に立って活動している森田さんから、地域での組織的運動の経験について発言がありました。ぜひこれを継続して広げたいと思います。」

一方、これまで地域の自主性を任せていた活動を、法人本部としてもかかわって広げようと、昨年から報告会をひらき、そこから教訓を

かんで全体の運動に生かす取り組みを始めました。そのためにも、サロンの活動と事業活動を

を分け、相互のかわりを柔軟に考えてみるなど、相互連携の仕方を検討することも必要です。」



老人福祉センターの活動では、高齢協のボランティアセンターとしての活動とボランティア育成の両面での役割を果たしていただくこと期待と希望を持っています。来年、再来年の報告に期待したいです。ごじしは事業拡大の検討をめぐります。2棟目の小規模多機能型居宅介護事業所の立ち上げと、多様な高齢者への支援として、お年寄りが気軽に立ち寄り、宿泊もできるような居場所づくりができないかも検討します。また引き続き、深刻な80500問題にも、支援の在り方を改めて取り組んでいきます。今後の高齢協の活動については、皆さんの知恵と力を総結集したいと考えています。」

資格審査委員会報告

資格審査委員長の藤田均より、本総代会は、総代定数100名に対して、本人出席12名、書面出席74名で合計86名の出席があり、本総代会が成立していることの報告がございました。」

採決

各議案採決の結果は次の通りです。

第1号議案

「2020年度活動報告及び決算承認の件」

第2号議案

「2021年活動方針及び予算決定の件」

第3号議案

「定款改定の件」

第4号議案

「役員補充選任の件」

第5号議案

「役員報酬限度額決定の件」

第6号議案

「役員報酬限度額決定の件」

第7号議案

「議案決議効力発生の件」

第8号議案

「議案決議効力発生の件」

「議案決議効力発生の件」

(結果) 満場一致で採決

アジュール提案と採択

千田睦子総代よの「アジュール」の提案があり、満場の拍手で採択されました。採択されたアジュールは別紙にご覧いただけます。

最後に、新理事として藤田均よの決意の言葉がございました。

あじなわ

まつひの「ひまわりの花壇」

泉中央老人福祉センターでは「福島ひまわりの里親プロジェクト」のひまわりの花が咲いています。

この「ひまわりの種」は協賛企業 パン株式会社 東北業務部・総務課よの紹介で種を譲り受け、センターでひまわりの専用の花壇を手作りました。

画像はひまわり咲いたものです。ぜひ、咲いてるのを見に来てください。

(泉中央老人福祉センター 藤田)

「福島ひまわりの里親プロジェクト」とは

2011年3月11日「起」した東日本大震災後、福島県の障がい者福祉施設等の仕事がないので、困っている人からな



さんが助けたいと始めた「プロジェクト」です。

プロジェクトでは、福祉施設へひまわりの種のバック詰めを依頼し、全国のみなさんに購入していただくことで、新しい仕事が生まれました。

今では、福島の復興のために子ども、子供たちの教育、企業のCSRの「環」つなぎ、全国でひまわりの種を届けています。

*CSRとは「シーエスアール」と読みます。「Corporate Social Responsibility」の頭文字を取ったもので、「企業が社会に対して持つべき責任」という意味です。

98歳の誕生日

5月の庵(い)を利



用している照井海子さんは今年98歳の誕生日を迎え、先般、誕生会が盛大に行われました。照井さんは仙台で

助産師、看護師、保健師の資格を取り、生まれ故郷である秋田で産婆さんとして2000人の赤ちゃんを助けてあげています。吹雪のなかを訪問したり苦労が多かったようですが懐かしさで当時のことを秋田なまりで話してくれます。赤ちゃんをややこしく取上げた大きな手は、今は手フックごみ箱を折り、裏面の紙を使ったお手製のノートを作り、塗り絵を楽しむなど活躍しています。また、歌が好きで、テレビドラマの主題歌「ああ人生」涙あり」はいつも大好きな歌です。

♪「人生楽めりゃ 苦ぢあぢぢ

涙のあとには虹も出る

歩いてくんだ つかつか

自分の道を ふみつけよう、

じわからも大好きなお風呂や、食事を楽にして元気に過ごしてほしいです。(5月の庵(い) 長尾)

【編集後記】

白寿(はくじゆ)は99歳のお祝いです。白寿の名称の由来は、漢字の「白」から上部の「一」を取ると「百」である。数字の100から一を引いた99(じゅうきゅう)で99歳のお祝いを白寿といふようになったといわれています。

百歳のお祝いは紀寿(ひゃく・ももじゆ)です。100年が一世紀といふから紀寿、また100歳であることから百寿(ももじゆ)と呼ばれています。

日本語には美しい表現がたくさんあります。

東京オリンピックで有名な「おもてなし」は、「心のこもった待遇」のことです。お金をかけて対応するのではなく、心の問題です。オリンピック観戦は無観客なのか有観客なのかを検討していますが、「コロナ禍で感染拡大を懸念する状況を地方自治体に任せられています。政府の見解は何も示されていません。『ただいま』だけが良しのじゆんか。」

(編集担当) 藤田